

# 地域とともに歩む学校づくりのための 学校評価を目指して

札幌市立東白石中学校

## I はじめに

### 学校評価の システムづくり

#### 1 本校における学校評価のねらい

本校では、平成 18 年度より、全校生徒並びに保護者向けの学校評価アンケートを実施し、少しずつではあるが、その取り組みを進めてきた。今年度は新校舎落成に伴い、また特別支援教室の設置も行われ、大きな変革の年を迎えている。加えて、事務部門の強化のための事務職員加配が措置され2年目を迎え、学校経営（マネジメント）に関して、学校長を中心とした円滑な学校経営をすすめるべく、全職員一致して取り組んでいるところである。学校評価への取り組みは、このような流れの中で、これらを、より具現化するべくより実践的に効果的にすすめていきたいと考えている。

ついては、今後どのような方向へ進めていくべきか、また旧来からの体制を手直して、小中連携を含めた、より効果的な新たな学校評価のためのシステムづくりをしていきたい。

## II 本校の自己評価システム

#### 1 学校評価委員会と自己評価

今年度より立ち上げた学校評価委員会は、旧来の教育課程編成委員会と同一メンバーで行っている。各分掌で検討した学校自己評価項目持ち寄りして検討、項目数が過多にならないように整理することを念頭に、職員会議に提案する。学校評価委員会では、事務職員が議事録作成および決定した自己評価書作成の一部の任に当たっている。

#### 2 学校関係者評価委員会

学校評議委員に学校評価委員を兼任していただいている。年3回の同委員会を開催しているが、将来的に校下小学校と合同での同委員会の設置を検討していきたい。また、軌道にのった段階では、学校評議委員会の在り方調整も必要と考えている。

### 関係者評価委員会の 小学校との合同設置

(将来のイメージ図)



### Ⅲ 学校評価の年間の流れ

将来的に、中学校区内小学校2校との連携した学校評価を行いたい。各校の学校評価担当者(教務等)に各校事務職員が加わった会議(3校学校関係者評価協議会=3校協議会)で実施していきたい事項(当面は『事務共同実施』会議に教務担当者が参加)や、校下小学校との交流事業等の関連行事を斜字で示している。

	自己評価			学校関係者評価
	学校(教職員)	生徒	保護者	学校関係者評価委員会
4	学校経営方針決定 学校評価委員会(評価項目検討) 【3校協議会】・評価項目の持ち寄り ・学校関係者委員の決定			
5	【3校協議会】～関係者評価委員会～ 各学年PTA・授業公開日		学校便りにて 評価項目掲載	3校合同関係者委員会① ・評価項目の確認 ・年間行事の確認
6			学校便りにて 関係者評価委員の紹介	
7	個人懇談			
8				
9	学校評価委員会(中間自己評価) 【3校協議会】・中学校訪問要領作成	文化祭 行事アンケート	行事アンケート	
10	【3校協議会】～関係者評価委員会～	6年生による 中学校訪問		3校合同関係者委員会② ・各校中間報告 ・学校見学
11		合唱コンクール 行事アンケート	行事アンケート	
12	教職員学校評価アンケート 学校評価委員会(自己評価書作成)	学校評価 アンケート	学校評価 アンケート	
1	【3校協議会】・新入生引き継ぎ日程決定			
2	【3校協議会】～関係者評価委員会～	6年生対象 中学校説明会	新入生 保護者説明会	3校合同関係者委員会③ ・関係者評価の実施
3			学校便りにて 学校関係者評価掲載	

#### IV 学校評価の方法

学校評価の実施に当たって、①教員の負担過重、②従来の年度末反省の扱い、については避けて通れない問題であった。したがって、本校では出来るだけ事務部門の強化のために加配された事務職員にその業務に当たり、主担当である教務担当との業務分担のあり方を検討していきたい。また2年後を目途に年度末反省職員会議を廃止することを確認した。

学校評価制度の定着のためには、現在の学校の実態を生かしながら、緩やかに確実にシステムを変革していくことが大切と考えている。

##### 自己評価の手順

#### 1 自己評価項目の決定

- (1) 学校教育目標、今年度の重点を受けて、各分掌・学年において年度初めの諸会議の中で、重点項目を1～2点挙げてもらう。
- (2) それらを持ち寄って、学校評価委員会の中で、今年度の重点項目及び各評価項目を決定する。その年度内に改善が図れる内容、また2～3年継続して取り組んでいくべき内容に整理して取捨選択していくよう留意した。特に今年度新校舎落成に当たり、その施設の有効活用を念頭に置いて評価項目を作成した。自己評価書は教務担当者で作成したが、今後は事務職員と協議・分業しながら作成していく。
- (3) 職員会議にて、それらを提案し、全職員の共通理解を図った。
- (4) 自己評価書を『学校便り』に掲載し、保護者・地域に周知した。学校便りは前年度より事務室が担当しており、事務職員によって地域の主な施設等にも配布されて、校下小学校にも掲示していただいているところである。また、学校だよりはそのまま本校HPにて公開している。

学校評価制度の実施に伴い、年度末反省職員会議を廃止することに抵抗がある教職員は少なくない。したがって、従来から行っている行事ごとの反省や、実施している生徒アンケートの重要性等を認識していただき、年度末にあらためて反省を行うことは重要ではないことの共通理解を図っているところである。

#### 2 自己評価書の作成

- (1) 自己評価書にそのまま全職員に記入していただき、教職員アンケートとした。達成状況はA～Dの4段階評価。それらを集約して『自己評価書』を作成。
- (2) 『学校評価委員会』を開催して、評価の確認の上原案とし、職員会議にてそれらを決定した。  
今年度については、自己評価書の段階では公表しなかった。

##### これから目指す 学校関係者評価

#### 1 学校関係者評価委員会の組織

近い将来、学校関係者評価を、より中身のあるものに作り上げていくためには、校下の小学校との連携のもとに共同で取り組み、小中の連携強化を単に接続の問題のみではなく、「子どもの育ち」の面で活かすものとするのが大切と考えている。

3校で各1名の関係者評価委員を選任し、計3名で3校共同の学校関係者評価委員会を組織する。本校の現関係者評価委員は元PTA会長経験者が多く、小学校当時もPTA会長をされていた例が多い。そのため、校下小学校の事情にも通じており、中学校にとどまらず義務教育9年間を通しての貴重なご意見をいただけることが多い。このような取り組みを進めることによって、9年間トータルな形での「子どもの育ち」を確認し、学校を改善していく方向性を定めていくことが大切であると思われる。

## 2 学校関係者評価委員会の運営

この組織の運営を事務職員が担当することによって、教員の負担の増加を最小限に抑えることができる。

また、事務職員は人事異動により小中どちらにも配属されるため、各学校種特有の事情も理解しており、連携を取る際、円滑にその運営を行える利点がある。

本校では今年度、校下小学校との新入生受け入れ業務の日程調整を「学校事務の共同実施」にて行ったが、大きな支障はなかった。この流れを学校関係者評価の場面でも活用していきたいと考えている。

ただし、この流れを確実に実現するために、事務部門の強化のための事務職員の加配については、継続して措置されることが重要である。

## V 評価結果の公表

### 学校便りの活用

#### 公表の方法

今年度は自己評価書を『学校だより』に掲載し、保護者・地域に周知した。なお、事務部門の強化のための事務職員加配のための学校だよりにかかわる業務は、前年度より事務室が担当しており、地域の主な施設や職業体験学習受け入れ先企業にも配布されて、校下小学校内にも掲示していただいているところである。

また、学校だよりはそのまま本校HPにて公開して公表している。多少簡略化した公開方法ではあるが、これからの学校評価制度を軌道に乗せていくに当たって、教職員の負担過重にもならず、有益な方法であると思われる。

学校評価アンケートの結果と分析は、前年度まで細かな分析結果も公表していたが、今年度は大まかな傾向のみの公表にとどめ、自己評価書はそのまま掲載する予定である。学校関係者評価書については、今年度着手1年目ということもあり、公開は予定していない。

## VI 成果と課題

本校では、学校評価アンケートに取り組んで3年目、学校評価・学校関係者評価には今年度より取組を始め、この制度をより実りのあるものとして定着させていくように取り組んできたところである。

何よりも欠かせないのは、教職員の理解と協力である。より小回りの効く、すぐに改善につなげていくことが出来る学校運営体制を構築していくためには、『学校評価制度』は非常に有意義なものとして考えられることの一つである。形だけで終わらずに効果的に取り組むためには、教職員の負担増にならない方法を模索すること、保護者・地域に対してより分かりやすく学校としての考え方を伝えていくこと、この制度にとどまらずに、変化しつつある学校経営の在り方をトータルで考えていくことが大切であると考えられる。

校下の小学校と連携を深めながら取り組む学校評価は、これらのことをふまえながら、有効に進めていく一つの手だてであると考えられる。

今後とも、校内においてよりしっかりとシステムづくりをして、本校における『学校評価』が定着し、「地域に開かれた学校づくり」と「小中連携強化」を目的とした事務部門強化のための事務職員の加配（学校事務の共同実施）を活用し、連携しながら円滑で効果的な学校改善につなげていくことができるように進めてまいりたい。

# あかまつ

札幌市立東白石中学校  
学校だより第 号  
平成20年 月 日発行  
校長 工藤 隆

<http://www.higashishiroishi-j.sapporo-c.ed.jp/>

## 新たな学校評価制度がはじまる

今年度から学校教育法施行規則等の一部改正を受けて、各学校は学校評価の充実を図ることになりました。札幌市教育委員会は研究実践校20校を指定し『学校自己評価』と『学校関係者評価』制度の取り組みを行うことになりました。本校も研究実践校の指定を受け、すでに年度当初『学校自己評価項目』を設定し、その改善に向けて取り組んでいるところです。以下、その内容をお知らせいたします。

### 【重点目標】

- ①落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組む態度を育成することができたか。
- ②あらゆる機会を利用して、校舎を大切にしようとする心をはぐくむ指導ができたか。
- ③施設利用を工夫する場面を設定できたか。

以上の重点目標を設定し、教職員一同取り組んでいるところです。これに基づいて、以下9個の『自己評価項目』を設定いたしました。

- ①落ち着いた雰囲気の中で、授業に集中させる学習指導ができたか。
- ②T.Tの活用などにより、個に応じた教科経営ができたか。
- ③コンピュータや情報通信ネットワークを活用した授業の工夫ができたか。
- ④開かれた職員室を意識し、学校の教職員一丸となって生徒指導に取り組めたか。
- ⑤生徒に社会の一員としての意識（公共心・公德心）を高めることができたか。
- ⑥特別支援学級の設置に伴い、特別支援教育の一層の充実に向けた校内支援体制を整備することができたか。
- ⑦学校便り・ホームページの活用など、学校の情報を広く発信できたか。
- ⑧新校舎の施設・設備を教育活動の様々な場面で有効に活用することができたか。
- ⑨新校舎の施設・設備の安全確保や維持管理に努めることができたか。

新校舎が落成し、新しい施設設備の中で、これから数年間をかけて、特に⑧⑨については重点的に取り組んで行きたいと考えています。

また最新の施設設備ですので生徒だけの有効な活用を考えるだけでなく、将来的には地域との交流の場としても活用していく方法を模索していきたいと考えています。

ご意見やご要望などがございましたら、お寄せください。



2階から見た授業中の1階3年生の教室

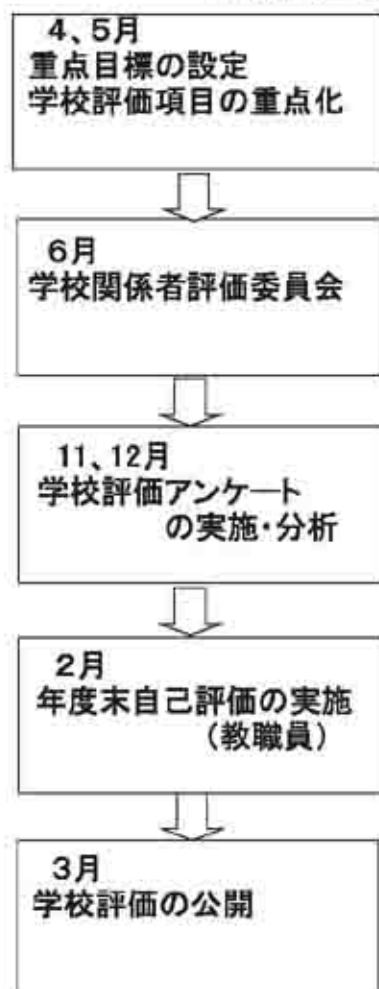
### ※参考

これからの学校には、自らの教育活動や学校運営について自律的・継続的な改善を行っていくとともに、保護者や地域住民に対して説明責任を果たし、教育活動やその他の学校経営に対する理解と参加を得ていくため、さらに学校評価を充実していくことが求められています。

(札幌市教育委員会資料より)

# 学校評価制度の1年間の流れ

本校における学校評価は、一年間次のように進めて参ります。



本校の学校教育目標『すすんでよりよい社会をつくる人になる』をベースにし、その年度の重点目標・学校評価項目を設定します。その意図は、前年度の反省を生かしながら達成可能な目標を設定し、学校として時代の変化を意識して、学校改善に役立てようという考え方によるものです。

学校において設定した自己評価項目をもとに作成した『自己評価書』が適切であるかどうかについて、外部の意見を聞きます。このために学校関係者評価委員会を設置いたします。なお、本年度においては、学校関係者評価委員として学校評議委員の 道塚勝美様、土本武広様、大澤 稔様とPTA会長の川島 清志様の4名にお願いいたしました。

その年度の評価項目の達成具合を把握するために、必要に応じてアンケートを実施いたします。本校においては、過去2年間大規模なアンケートをお願いして参りましたが、今年度についてはより評価項目に即したアンケートをお願いする予定です。その際は、ご協力をお願い申し上げます。

アンケート結果等もふまえて、教職員で自己評価を実施し、同時に次年度に向けての改善の方策についても検討します。さらに、次年度の評価項目についても見直しを図ります。

学校関係者評価委員会を開催し、教職員による『自己評価』が適切であったかどうかを評価していただきます。また、評価結果を学校便りにて公開します。

上記の流れと内容で学校評価を進めて参ります。今年度は『自己評価』についてしっかりと取り組むとともに、『学校関係者評価』を取り入れて参ります。保護者・地域の皆様におかれましては、このようなことをご理解いただき、今後とも本校の教育活動にご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 文化祭へのご協力ありがとうございました

9月25日～26日の両日、文化祭が行われました。両日とも、多くの保護者や地域の皆様、関係小学校の校長先生など本校関係者の皆様が来校し、生徒の様々な活動の成果をご覧いただくとともに、温かい励ましをいただきました。特に、本年度は新校舎ということもあり、例年以上に多くの皆様にご来校いただきました。また、保護者の皆様にはPTAのバザーなどを通して、様々なご協力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。この後、10月31日(金)に校内合唱コンクールがありますので、ご都合のつく限りご来校ください。



Mつば組に実験教室(3-5)



日本発!! アニメギャラリー(1-8)



標準服リサイクル(PTA)



青空市(7組)

札幌市白石区南郷通15丁目北4-1 Tel 864-0984 〒003-0023  
ホームページ <http://www.higashishiroishi-j.sapporo-c.ed.jp/>